

2019年度 第6回 SBRT 治療計画実習講習会に参加して

社会医療法人 明陽会 成田記念陽子線センター 富田真司

この度、日本医学物理士会の講習会参加補助の助成により、2019年11月30日に開催された第6回 SBRT 治療計画実習講習会に参加させていただきました。本会は、バリアンメディカルシステムズ様のエデュケーションセンターで開催され、東京駅から徒歩圏内のアクセスのよさは地方から参加した私にとって非常に助かりました。

私が所属する施設は、陽子線治療のみを実施しており、今回のテーマである X 線による SBRT を行っているわけではありません。しかしながら、現在どのようなことが SBRT の治療計画においてトピックなのか関心があり、また自施設で所有していない治療計画装置に触れるよい機会であると思ひ、参加させていただきました。

講習会では、参加者一人ひとりに実機を割り当てていただきました。自分で実際に操作しながら治療計画を立案し、要所で講義を受けながら進めていく流れでしたので、治療計画装置に慣れていない私でもなんとかこなしていくことができました。講師の先生方も受講者の進捗状況を気にかけくださり、受講者にとって有意義な講習会になるよう心を砕いていただいていたことがとても印象的でした。また、同じ症例に対して施設をまたいで治療計画を比較する機会はあまりないと思いますので、自分の立案した治療計画となりが違うのか、なぜ違うのか考える貴重な経験となりました。

線量計算アルゴリズムや呼吸性移動対策などの考え方に関する講義は、陽子線治療にも置き換えて考えることができる内容であり、著名な講師の方々のわかりやすく要点をおさえた資料とともに非常に勉強になりました。また、講師の方々の施設における SBRT のワークフローなどもご紹介していただき、自施設でも改めてワークフローを見直そうと思った契機になりました。

他分野でも同じだと思いますが、放射線治療においても技術の進歩や知見の集約によって刻々と状況が変化しており、日々、知識をアップデートしていく必要性を感じています。そのなかで、今回のような講習会への助成制度を活用させていただけたことに非常に感謝しています。講習会で得た情報を自施設に持ち帰り、より安全で効率的な放射線治療をおこなえるよう臨床業務にフィードバックしたいと考えています。

最後になりましたが、今回の講習会参加にあたりご支援いただきました日本医学物理士会の理事の皆様、ならびに講師をはじめとする講習会スタッフの皆様、会員の皆様に深く感謝申し上げます。

以上